遺伝性乳がん卵巣がん理解を

鳥大病院がんセンター市民公開講座「もっと知ってほしい　がんと遺伝子のこと―HBOCについて正しく知ろう―」

遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）について広く啓発する市民公開講座「もっと知ってほしい　がんと遺伝子のこと－HBOCについて正しく知ろう－」（鳥取大医学部付属病院がんセンター、同病院HBOC診療チーム主催）が９月２日、米子市加茂町２丁目の国際ファミリープラザで開かれた。

HBOCは生まれつき乳がんや卵巣がんになりやすい遺伝性のがんで、本人がHBOCの場合は兄弟や子どもは50％の確率でHBOCの可能性がある。公開講座では、がんの特徴や検査方法の解説、体験談などを通して、参加者約160人は予防方法や対処方法などを学んだ。

ごあいさつ

鳥取大医学部付属病院がんセンター長　小谷　昌広氏

遺伝性乳がん卵巣がん（HBOC）は、最近知られるようになりましたが、まだまだ知名度は低いがんです。遺伝子異常の多くは、後天的に遺伝子に傷が付いてがんが発症するものですが、HBOCは生まれつき親から引き継いだ遺伝子でがんが発症します。乳がんで約４％、卵巣がんで約12％と、少なくありません。見つかる過程は、先祖にがん患者がいたかどうかの家系図で確認します。先祖にがんが多く心配な場合には、遺伝カウンセリングを受ける必要があり、鳥大病院には遺伝カウンセリングの外来があります。今回の講座では、遺伝性がんの特徴とHBOCの解説、体験者の話などを紹介します。

がん原因5―10％は遺伝性

ほとんどのがんの原因には、体質や環境要因などが複雑に関係しています。一方で、遺伝性のがんは生まれつきの要因が重要で、遺伝子の検査で分かります。がんの原因の5％から10％が遺伝性と考えられています。遺伝性がんの一つである、遺伝性乳がん卵巣がんでは、乳がんや卵巣がん、前立腺がん、膵がんなどに生まれつきなりやすく、80歳までに約7割の人が乳がんになるといわれます。400人から500人に1人は遺伝性乳がん卵巣がんの遺伝子の変化を持っていて、決して珍しくはありません。遺伝子の変化を持っているからといって100％がんになるわけではありません。遺伝性乳がん卵巣がんと分かれば、推奨されている方法で乳がんを早く見つけて早く治療するなどができます。

遺伝性乳がん卵巣がんなど、遺伝性のがんの診断のきっかけはご自身のがんだったり、家族のがんだったりさまざまです。遺伝性のがんのことや、検査や検査結果をどう考えて捉えていくかなどにあたり、遺伝カウンセリングを利用することができます。遺伝カウンセリングでは、科学的な根拠に基づく正確な医学的情報を、利用可能な医療の情報を含め、分かりやすく理解していただくお手伝いをします。その上で情報を伝えるだけでなく、お話を伺いながら、これからについて、気持ちの面も含めて、一緒に考えるお手伝いをします。鳥取大医学部付属病院の遺伝子診療科では、臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーの資格を持った者が複数人で対応しています。

演題「がんと遺伝子のキホンのキ」

鳥取大病院遺伝子診療科助教　**岡崎　哲也氏**

発症予防にリスク低減手術

HBOCは、BRCA1またはBRCA2という遺伝子にがんになりやすい変化が生じています。卵巣がんは、BRCA1は30歳、BRCA2は40歳～45歳くらいからリスクが高くなり、生涯でがんになる確率はそれぞれ44％、17％です。自身を含めたご家族の中に、40歳未満で乳がんを発症した人や時期を問わず乳がんを2個以上発症した人、男性の乳がんの人、卵巣がんを発症した人などに、HBOCの可能性があります。

演題「HBOCについて正しく知ろう」

慶応義塾大医学部産婦人科学教室専任講師　**小林　佑介氏**

遺伝子検査で陽性だった場合には、定期的な検査を受けることが重要です。例えば卵巣がんのリスクに対しては、内診と超音波検査、がんマーカーの測定を半年ごとに行います。また、ピルを使うと卵巣がんの起きる確率を50％減らすと考えられています。

予防効果が高く世界中で推奨されているものに、がんができる前に卵巣と卵管を取ってしまうリスク低減卵管卵巣摘出手術があり、卵巣がんのリスクをほぼ完全に減らすことができます。卵巣がんは35歳くらいからリスクが上がるので、基本的には35歳から40歳くらい、最後の出産が終わり次第、手術を受けることが推奨されています。

リスク低減手術を考える際に更年期を心配される人がいますが、更年期に対応する治療法はいくつもあります。年齢が上がるとがんになるリスクが高くなり、がんになると手術や抗がん剤治療で体に大きな負担がかかるため適切な時期に手術を受けることが望まれます。リスク低減手術は一部保険収載されていますが、自費診療になる場合もあり注意が必要です。決して一人で悩まないで、私たちと一緒に考えましょう。

家族歴を知り健康に生かす

NPO法人クラヴィスアルクスは、日本で唯一の遺伝性乳がん卵巣がんの当事者会です。クラヴィスは鍵、アルクスは虹という意味で、心の鍵を開けて遺伝医療がこれからの鍵となるという思いで名付けました。

2011年、左側の乳がんになり検査でHBOCと診断されました。父からの変異を遺伝しています。姉を08年に卵巣がんで亡くし、父の兄弟も皆がんになり、父も十二指腸乳頭部がんで19年に亡くなっています。父はHBOCと分かっても男性だから、対策できる環境が少なくHBOCに効果的と言われている薬も保険では使えなかった。そこで、いろんなことを変えていかないといけないと思いました。

私の家族はたまたまHBOCを受け入れて皆検査をしましたが、日本ではまだまだ、がんになったことを言えないという人もたくさんいると思います。がんや遺伝のことで不安になることもあるでしょう。遺伝検査をして自分の体質を知り、家族・血縁者の体や健康管理についても、話してみてください。

HBOCと診断されてから、遺伝は悪いことではないと分かりました。同じがんを発症するなら、私はHBOCだったことをよかったと思っています。遺伝性のがんを知ることでできたことはたくさんあります。家族歴を知って健康に生かすことができます。そのために患者会を立ち上げました。百人いれば百人の物語があります。私たちが閉鎖的になったら次の世代の子供たちが閉ざされてしまうので、うまく伝えつなげましょう。

演題「遺伝性がんと知ることでできたこと」

ＮＰＯ法人クラヴィスアルクス理事長　**太宰　牧子氏**

トークセッション

がんと遺伝　家族で話し合って

心配事は主治医に相談を

座長　佐藤慎也氏　鳥取大医学部付属病院　女性診療科講師
小林佑介氏　慶応義塾大医学部産婦人科学教室　専任講師
太宰牧子氏　ＮＰＯ法人クラヴィスアルクス　理事長
高橋弘幸氏　鳥取県立中央病院　産婦人科統括部長
細谷恵子氏　鳥取大医学部付属病院　乳腺内分泌外科助教
野中智生氏　鳥取大医学部付属病院　認定遺伝子カウンセラー
奥野梨沙氏　鳥取大医学部付属病院　がん看護専門看護師

遺伝性がんについて解説する参加者

佐藤慎也座長

佐藤　がんと遺伝について、よく聞かれることはありますか。

細谷　初診の際には必ず家族歴を確認します。「家族親戚にがんの人はいないけれど、なぜ私だけがんになったの」と、よく聞かれます。正しい知識、情報を伝えるよう心がけています。

奥野　遺伝性のがんは分からないこともたくさんあるので、心配なことは主治医とよく話し合うよう勧めています。

太宰　自分に遺伝子変異があった場合に「次に誰を連れてきたらよいですか」と、よく聞かれます。

小林　普段あまり会わない親族に「遺伝子検査を受けた方が良い」と急に、連絡するのは大変です。つながりがある方を中心に、できる範囲からで良いと思います。

佐藤　どのような方が遺伝性がんを考えるのが良いですか。

野中　患者さんご自身が判断するのは難しいと思います。遺伝カウンセリングで家族歴などを聞いて判断していきます。

佐藤　遺伝子検査を受けると何が分かり、何ができるのでしょうか。

小林　遺伝性がんになりやすい体質を元に戻すことや変えることはできません。定期的な検査を重ねたり、予防的な手術をしたりすることで健康管理につなげることができます。

太宰　検査を隠さないで教えてほしいのが今の20代、30代。逆にお母さんが検査をしてくれないとか、検査結果を教えてくれないという相談がすごく多い。

高橋　リンチ症候群の方に検査を勧めたら「私は血が汚いので明らかにしたくない」と言われた。上の世代の方が、遺伝に対して後ろめたい感情が強い気がします。

小林　知りたくない、知らないでいる権利もあって良いと思います。ただ、自分の体質の特徴を次の世代にバトンとして渡して教えてあげるという気持ちを持ってもらいたい。

佐藤　遺伝子検査はどのように受けたらよいでしょうか。

野中　主治医の先生から提案で、遺伝子検査をします。採血のみの検査で、約１か月で結果が出ます。保険がきく場合の費用は、３割負担で約６万円になります。

高橋　乳がんの患者さんは、手術前に検査をされる場合が多いです。自費でする検査は遺伝カウンセリングができる施設しかできないので、臨床遺伝外来を紹介しています。

佐藤　本人や大切な人ががんになったとか、予防ができる人できない人、さまざまな人がいます。最も大事なのは、がんと遺伝について家族で話し合うことだと思います。ご自分の情報がご家族に生かせるかもしれません。

9月2日に開催しました市民公開講座をQRコードから視聴できます。是非ご覧ください。

もっと知ってほしい！

がんと遺伝のこと

～HBOCについて正しく知ろう～

演者
岡崎哲也先生
（鳥取大学医学部附属病院遺伝子診療科）
小林佑介先生
（慶應義塾大学医学部　産婦人科）
太宰牧子先生
（NPO法人クラヴィスアルクス）

これまでに当院がんセンターで開催した市民公開講座は当院がんセンターのHPよりご視聴いただけます。

がんセンターHP

“とりがんねっと”とは？

“とりがんねっと”は、鳥取県がん診療連携協議会が運営するサイトです。がんに関する説明や関係する外部機関へのリンク、県内で開催される講演会など様々な情報を掲載しています。

“とりがんねっと”はどんな情報を掲載しているの？

- 講演会、イベント
- がんの事を詳しく説明した動画
- がん相談支援センター
- 患者サロン・患者会
- がん検診

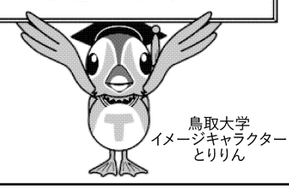
とりがんねっと
（鳥取県がん診療連携協議会HP）

鳥大病院 HBOC診療チーム

女性診療科、乳腺内分泌外科、消化器内科、消化器外科、泌尿器科、遺伝子診療科が協力して HBOC 診療に対応します。遺伝性のがんについて心配な方は、遺伝カウンセリングで相談できます。がんを発症していない方の相談にも対応しています。まずは、遺伝子診療科にお問い合わせください。

問合せ先：鳥取大学医学部附属病院　遺伝子診療科
TEL：0859-38-6692（平日9時～16時30分）

山陰でもHBOC診療をとどけよう！



鳥取大学イメージキャラクターとりりん